

第2次 広域配転

国鉄「分割・民営化」阻止！三里塚二期着工粉碎！

「余剰人員の平準化」とは大ペテン 玉突き = 「血の入れ替え」が狙い

国鉄当局 = 動労革マル一体の攻撃を許すな！

国鉄当局は、八月十一日、広域配転の第二次分を募集することを発表した。それによると今月二五日から九月十六日まで約三千四百人を目標に北海道・九州から東京・名古屋・大阪地区に送り込むというものであるが、第一次の動労革マルの全面協力によって送り込み先での国労役員・活動家を玉突きの職場から排除していくことにもられるように広域配転は、当局のいう「地域的アンバランスの調整」などでは断じてなく国労・動労千葉つぶしを目的に行われている。動労革マル分子の千葉への送り込みなど断じて許してはならない。

「余剰人員問題は解決できない」

広域配転攻撃が、国労・動労千葉破壊の攻撃であることは、今回の計画のなかにもはつきりと示されている。

それは、第一に先の一次募集で北海道・九州の希望者が少なく東北・山陰・四国までワクを広げ、ようやく目標数に達したのだが、新潟などは動労革マル分子が大挙して応じている実態がある。「北海道・九州のアンバランスの調整」など大ペテンである。

第二に、二次の広域配転を強行しても北海道に約一万一千五百人、九州で約一万人の「余剰人員」がでるといふ。職員局は「余剰人員問題は解決できない」などと全く無責任きわまりない。

第一次応募者二七%も辞退

第三に、一次募集で三千五百十五人の応募者の中から辞退者が続出、実際に異動したのは二千五百八十二人、実に二七%もの者が辞退しているのだ。家庭の事情や希望職種につけないなどの理由だといふが矛盾に矛盾を重ねる「広域配転」に疑問がでるのも当然である。

さらに宿舍は、住宅公団から月額一億円を払い借上げる他、プレハブ住宅を三十億円かけて建設するなどのムダ使いをやるうというのである。

第四に、何よりも広域配転者の大半を占める動労革マル分子が送り込まれた東京・大阪・名古屋の先々の職場で国労破壊の攻撃が当局と一体となった動労革マルによって行われている。

革マル分子が送り込まれた電車区では国労分会役員がそっくり「人材活用センター」へやられたり、大量に送り込まれた三六締結権を動労にとられてしまった分会など、この間、動労千葉が指摘してきた事態（動労革マルは国労を食って生き延びようとしている）に立至っている。

動労革マル一掃・追放することこそ勝利への道だといふことは明白だ。動労革マルの威を借りる真国労をたたきつぶし、動労革マルを職場からたたきだせ。

国鉄の「広域配転」

「広域配転」は、九日、国鉄が発表した。これは、北海道・九州から東京・大阪・名古屋・四国までワクを広げ、ようやく目標数に達したのだが、新潟などは動労革マル分子が大挙して応じている実態がある。「北海道・九州のアンバランスの調整」など大ペテンである。

当局と動労革マルのやっている事は、明らかで不当な行状を露見した！

道新 反撃

職場に怒り 反撃

国鉄の「広域配転」

玉突き追い出し

国労活動家を

国労掲示板に出た抗議の壁新聞